



農大だより

URL <http://www.pref.kagawa.jp/nodai/>

第8号 平成23年6月30日

香川県立農業大学校

〒766-0004

仲多度郡琴平町榎井34-3

TEL 0877-75-1141

FAX 0877-75-3989



新しい力で、香川の 農業・農村を元気にしよう

校長 北山 信夫

今、わが国は、東日本大震災と、さらには原子力発電所の事故により、未曾有の困難なときにあります。震災で被害を受けた皆様にご心からお見舞いを申し上げます。地震と津波はこれまでに経験したことがない大きな自然災害となり、原子力発電の事故は人と農産物の安全に対して大きな課題となっています。

私たちは、自然の力の大きさに改めて気づかされたわけでありますが、農業は、まさしく自然の力を活用して、安全な農産物を生産することを大きな目的の一つとしているものであり、今回の大災害・大事故を教訓にして、そのあり方を改めて考えるときであると思います。

今後とも農業生産は、自然とのかかわりの中で行われるものであり、将来にわたって維持・継続できるものでなければなりません。

本校では、農業生産の技術や経営についての教育を実施することにより、これまで香川県の農業・農村の担い手の育成に努めており、前身の農業技術者養成機関を含めて来年で百周年を迎えます。この間、5千名を

超える多くの人材を育ててきました。農業をめぐる情勢が大きく変化しているなかで、今年度からカリキュラムを大幅に見直し、より時代の要請に応えられる実践教育を実施することとしています。二年間で学ぶ担い手養成科では、新たに「食の安全」や「アグリビジネス・マーケティング論」、「パソコン農業簿記」等の講座を開設すると共に、農業の即戦力となれるよう一学年全員の農家実習を導入するなど、より実態に即した知識・技術が習得できるようにしました。

また、近年は農業法人への就職が増加していることもあり、新たにインターンシップ制を取り入れるなど、これまで以上に卒業後の進路支援にも努めていくこととします。

一方、新たに農業を始めるために学ばれる技術研修科では、昨年度から定員を増加したり、受講期間を延長するなどして、より多くの皆様の期待に応えて、即戦力となりうる農業の担い手の育成を図っているところです。

意欲ある皆様には、是非、楽しく有意義に学べる農業大学校で、より大きく成長、発展して欲しいと思います。教職員一同、入学をお待ちしています。

先進地視察研修報告

平成23年3月

野菜園芸コース

野菜園芸コースでは、京都府の農林水産センター、青果卸売会社、錦市場という商店街に行き京都の野菜について調べてきました。

今回の京都での活動では、教員の同伴のもとにあらかじめ予約をしておいた担当者の方にお話を聞きながらその中で自分が必要と感じたことを書き取るコース全体で動く団体行動と、各班ごとに自ら決めたテーマを調査する班別行動の二通りの調査を行いました。特に最終日は、訪れた錦市場で班ごとに行われた班別行動において、目的意識を持って店員の方に話を聞く事ができたと思います。

最後に京都の野菜を調べ、成功しているのは「イメージ」での戦略が大きな部分を占めている事を知ることができました。このことを基として、香川県も消費者にいかとうどん、うちわ以外の野菜というジャンルで香

川という「イメージ」を持ってもらえるような作物を作れるかが、これからの課題だと思いました。



花き園芸コース

花き園芸コースは、京都府立植物園、奈良県農業総合センターおよび大阪鶴見花き卸売市場へ行きました。

京都府立植物園は京都市街北部に位置し、開園八年以上と歴史のある植物園です。例年のごとく、この時期の植物園は露地で開花しているものはあまり見られませんでしたが、北山門前で「香りいっぱい京（みやこ）の花小路『花の回廊―第6回早春の草花展―』という

イベントが開催されており、いち早く春花壇を観察することが出来、今後の栽培品目選定の参考となりました。

奈良県は小菊の生産が多く、奈良県農業総合センターでは花き栽培チームの小菊栽培に関する試験内容を中心に話を聞きました。特に、小菊栽培の省力化に向けて開発されたバインダーを改良した一斉収穫機、開花程度選別機は実物を見ることで、学生たちの興味を掻き立てるものでした。

大阪鶴見花き卸売市場ではせりの状況やその裏舞台を見学し、仲卸では香川県の産地から出荷されたマーガレット、ラナンキユラス等もたくさん見ることができました。その後、市場担当者からせりの仕組み、香川からの荷物の入荷状況等について説明を聞き、香川県の花き生産における今後の課題を探ることができました。

また、今回の先進地研修は三県にまたがり移動も多く、その移動時間を利用して、京都、奈良、大阪の花屋を見て回り、香川県と大都市圏の販売価格の違いを実感することが出来ました。

果樹園芸コース



果樹園芸コース8名は、沖縄県名護市にある沖縄県立農業大学校並びに沖縄県農業研究センター名護支所でマンゴーなどの熱帯果樹の栽培について、そして那覇市内のスーパーなどでの販売状況の調査を行いました。

沖縄県立農業大学の果樹コースではマンゴー、パッションフルーツ、アテモヤ、ピワが栽培されており、各品目を担当している学生から管理等について説明を受けました。こちらからの質問に対するしつかりとした態度での回答に、我が校の学生は少々驚いた様子でした。

近年香川県でもマンゴーなどの熱帯果樹を目にする事が多くなりましたが、農大の果樹園には栽培されていないため、実物



沖縄県農業研究センターでは、研究員の方から、沖縄県で育成したパイナップルの品種や近年沖縄県で栽培が増えているマンゴーやドラゴンフルーツ、パッションフルーツの栽培について説明を受けました。香川県でのパッションフルーツの栽培を真剣に考える学生もいました。

那覇市にある牧志公設市場およびその周辺で販売されている果物については、学生が積極的にお店の方と交渉して、いろいろ話を聞いていました。



を見て栽培方法などについて勉強する事ができたのはとても貴重な経験となったと思います。今回の研修が今後の専攻実習や卒業後の計画の参考になると思っています。

造園緑化コース

造園緑化コースは、有名な古くからの日本庭園が集中している京都で例年先進地研修を行っています。

本年も、一年生9名が、一日目に醍醐寺三宝院、曼殊院。二日目に桂離宮、天龍寺、妙心寺退蔵院、等持院、龍安寺、大徳寺竜源院、大徳寺大仙院。そして三日目には、建仁寺と合計十カ所の庭園を観賞しました。

和牛の商品登録は、登録ミスを防ぐために各銘柄牛専用のラベルが付けられて販売され、讃岐牛も香川県で肥育された黒毛和種で、十五ランクの枝肉等級中上位四ランクのものを「金ラベル讃岐牛」、次の五、六ラン

この中で、大徳寺大仙院は枯山水の日本を代表する庭園ですが、住職より直々に庭の概要や人生訓などを説明してもらい、学生からも来てよかったとの声がか聞かれました。

また、桂離宮は、改修のため池の水が少なくやや残念でしたが、月の桂と呼ばれる回遊式庭園の景石、敷石、灯籠、茶室などの随所で、日本庭園のすぐれた技法を見ることができ、大変参考になりました。

畜産コース

畜産コースでは、大阪事務所藤田さんの紹介で、香川県の県産品の販路拡大のため讃岐牛フェアを開催している阪急宝塚駅にある百貨店の日本ハム系列の食肉店を見学し、讃岐牛を含めて全国の銘柄牛の品質、価格や商品登録などの調査をしました。



クのものを「銀ラベル讃岐牛」として販売されていました。

牛肉の良し悪しは、きめ細やかな霜降りや肉の色つやなどの品質で大きく変わり、より品質の良い銘柄牛が高く売られ、品質の重要性を改めて感じました。

有名な銘柄牛には松坂牛や神戸牛などが挙げられ、それぞれ産地ごとによって気候や風土、育て方などにより味も変わってくるそうです。

各銘柄牛の商品登録など、今まで知り得なかったことに対しても理解を得ることができ、非常に良い研修となりました。

活躍する修了生

近石 正明さん

(平成21・22年度修了生)

研修科では定年退職後に農業をするために入学してくる方が多くいます。勤めが主体で転勤等もあるため、実家に農地があっても親まかせになって、農業にはあまり関わっていません。一番の先生は親ですが、すでに高齢であるとか、納得いく合理的な解説が得られないことが多いようです。とりあえず基礎を知りたいという方で研修科は賑わいを見せています。

今回は、故郷まんのう町に戻って定年後の農業に精力的に取り組むを始めた近石正明さんを紹介します。

近石さんは平成21・22年度の本校研修科の修了生です。野菜コースで一年間余り野菜栽培の研修を受けられました。大阪で40年余り化学薬品の会社で勤め、定年となった平成21年9月に故郷香川に戻って来られました。実家には少しの農地があり、何か野菜を作ろうと考えていました。

研修期間中に、栽培品目の選定、

機械施設の導入、農地の拡大について検討を重ね、栽培する品目は農協の推進品目のブロッコリーとナスを選定しました。機械施設の導入は無利子の融資を借りることにして、認定就農者の認定を受けることにしました。申請書類の作成に苦労したようですが、認定を受けられる見込みのようです。農地の拡大は地元農業委員さんが面倒を見てくれるようです。



研修も半ばを過ぎた昨年の9月からはブロッコリー40アールの栽培に取組み、歩留まり99パーセントの好成績を得ています。暑過ぎた夏のかん水は大変苦労したそうです。

近石さんの営農計画は「小さ

活躍する卒業生

多田 浩気さん

(畜産コース平成21年度卒業)

多田さんは、木田郡三木町の出身で、平成20年度から二年間担い手養成科畜産コースに在籍しました。

実家が畜産農家ということもあり、中学の頃から牛を飼いたいと思っていたそうです。専攻実習は、まんのう町で2千5百頭のF1と和牛肉牛を生産する、現在の就職先でもある「鎌田牧場」で行いました。

そして卒業論文では、「ビタミンAが牛の肉質に及ぼす影響」をテーマに研究に取り組み、校内代表として中国四国発表大会にも参加しました。

現在、多田さんは鎌田牧場で

肉牛の一般管理であるえさやり、堆肥替え、出荷、および牛舎の修繕などを行っています。

今後の目標は、讃岐牛を生産する大きな畜産農家として将来独立することだそうです。

なお、多田さんの兄弟は兄が人工授精師で、浩気さんが牛を育て、弟さんは肉の加工の仕事をを行うなど、兄弟三人で畜産の生産から加工までを手がけているので、兄弟で協力できると話してくれました。

また、後輩へのメッセージとしては、「自分のやりたいことをやる。仕事はえらい時の方が多いかもれないが、やりがいがある仕事を見つけたこと。」



**平成 22 年度
校内卒業論文発表会**

今年度の 1 月 21 日、校内卒業論文発表会が行われました。二年生は、専攻実習授業の

中で課題を設定し、調査研究した結果を取りまとめ、発表会に挑みました。学生たちは、持ち時間の中で研究成果や問題点、農家での実用性などを発表しました。指導講師、教授、学生によ

る採点の結果、野菜園芸コース小倉広士君と果樹園芸コース稲井康人君が最優秀賞に選ばれ、中国四国ブロック発表会で発表することとなりました。

コース	氏 名	課 題 名
野菜園芸	阿部 純平	イチゴの高設栽培における多植栽培方式の検討
	井内 俊輔	夏期の青ネギマルチ栽培におけるマルチ資材の検討
	大林 将都士	移植機導入による菊と野菜の定植作業の省力化
	大森 萌那	竹内農場における農作業での効率的な役割分担
	小倉 広士	タマネギにおける機械適正導入規模の検討
	合田 正幸	12月穫りレタスピックベイン病耐病性品種の比較試験
	坂口 順哉	竹内流農業経営
	塩飽 真奈美	ミニトマトにおける夏作での草勢維持対策-マルチ資材が収量に及ぼす影響
	竹内 英紀	露地野菜における農薬散布時の薬液飛散防止対策の検討
	富木田 吾一	香川農園における野菜多品目栽培の特徴
花き園芸	泉谷 辰也	鉢花ヒマワリの出荷時期と栽培方法の違いが市場評価に及ぼす影響
	植田 靖菜	トルコギキョウの盆前出荷に向けた育苗夜温と播種時期の検討
	我部山 誠也	ヒマワリの蕾切りによる強制開花技術の検討
	川田 博美	播種時期がパンジーの生育に及ぼす影響
	高島 有里枝	LED光源を利用したキク類の開花調節及び安定技術の開発
	野崎 瑤平	ポットボタンに対するわい化剤の検討について
	森 優也	夏ギク「夏氷河」のわい化剤処理による品質向上と生育特性調査
果樹園芸	安倍 裕樹	モモ「なつおとめ」の除袋時期の違いが着色とみつ症の発生に及ぼす影響
	稲井 康人	カキ「太秋」における夏季灌水が果実品質（条紋）に及ぼす影響
	川北 祥伍	ブドウ「藤稜」のジベレリン1 回処理が果実品質に及ぼす影響
	葛原 一成	ナシ「香水」のジベレリン処理による早期出荷などで経営の安定化
造園緑化	池北 真太郎	二級造園技能検定実技試験モデルの作成
	卯目 由樹	榎井村字六條股新出水の改修
	楠井 将貴	清少納言衣がけの松跡地への松の移植
	佐伯 卓哉	グラウンド整備とインクラゲの防除
	塩崎 朝	和風庭園のデザイン作成
	戸田 宗貴	噴水周辺の整備
	箸尾 正三	松盆栽の育成と松見本園の整備
	村上 勇介	善通寺ガーデンフェスタへの出展
畜産	鶴足 恭平	雄豚（無去勢豚）における肉質の特徴
	桑嶋 春佳	大規模養鶏場における採卵鶏の初生ひなの育成調査について
	多田 幸司	自然哺育における和牛子牛早期離乳試験
	二宮 亜梨沙	肥育牛の非破壊的肉質診断（超音波診断装置による生体肉質診断）の検討

**中国四国ブロック
プロジェクト発表会**



平成 23 年 1 月 27 日、28 日、高知県において開催された発表会では、野菜コースの小倉広士君が「タマネギにおける機械導入適正規模の検討」、果樹コースの稲井康人君が「カキ「太秋」における夏期灌水が果実品質（条紋）に及ぼす影響」の調査研究について発表しました。当日は、中国四国地域の 9 校から 18 課題の発表があり、他県の生徒も持ち時間を十分に活用し、熱心な発表会となりました。夜は高知農大で収穫された農産物を使った手作り料理を囲みでの交流会となり、恒例の学校紹介では、野菜園芸コースの岩倉君と淀君が、本校での学習・実習内容や学校行事について紹介しました。

平成 22 年度 卒業式

3月3日、第34回卒業式が知事出席のもと盛大に行われ、担い手養成科学生33名と技術研修科研修生26名が卒業しました。

北山校長から「農業社会は大きな変革を迎えている。本校で得た知識、技術、体験を生かし、困難な課題を自ら克服していったほしい」と式辞があり、浜田知事からは「一層研鑽を積み、香川の次代の農業・農村を担うリーダーとして力を発揮して欲しい」と激励がありました。卒業生を代表し、野菜園芸コースの坂口順哉さんが、農学連スポーツ大会の思い出などとともに「二年間で得た体験や友情は人生の大きな財産です。この体験を心の支えにして、社会に第一歩を踏み出して行きます。」と誓いました。

担い手養成科卒業生の進路は、厳しい就職事情でしたが、就職10名、JA等の農業関連会社17名、その他企業等6名でした。

それぞれの道を歩み始めた皆さんに今後のご活躍を期待します。



学校行事予定

○オープンキャンパス

今年は、保護者の方も参加して頂けるよう日曜日にも開催いたします。

7月9日(土)、7月31日(日)
8月5日(金)、8月24日(水)



○四国農学連スポーツ大会

四国4県の農業大学校生が軟式野球、バレーボール、バトミントン、卓球に試合に挑みます。

10月5日(水)徳島県



○農大ふれあい市

農業大学校校内で、学生が企画したバザーや生産物などの即売と、学校案内を開催いたします。

11月12日(土)

午前10時半～午後2時

(駐車場は農耕車運転コースですが、台数に限りがありますので、公共交通機関でお越し下さい)

平成 23 年度 職務分掌表

校長 北山信夫

副校長 合田雅和

総務研修課長 氏家 敬

(庶務・経理担当)
副主幹 宮西恵子

主任 宮武利明・香川 治

庁務員 三井典子・庁舎管理 高橋利治

(研修担当)

教授 瀧川裕史・准教授 長尾昌人

教授 中條秀俊・次田 求

教務課長(兼副校長) 合田雅和

(学務・農場担当)

教授 牛田 均・准教授 高橋秀彰

首席技師 白井洋二・野村和親

管理員 吉原桂子・山本雅之

事務補助 堀瀬照子

(野菜園芸コース)

准教授 小河原良文・教授 野田啓良

教育助手 小倉広士

(花き園芸コース)

教授 村口 浩・河江正明

教育助手 森 優也

(果樹園芸コース)

准教授 氏家英樹・教授 大林 巧

教育助手 川北祥伍

(造園緑化コース)

教授 大西孝志・矢野 清

教育助手 池北真太郎

(畜産コース)

教授 高原稜夫